

FEATURE

特集

HOME / FEATURE / 平井にある本屋と、歩行者天国と余白の関係性

積極的な余白



内海

積極的な余白。言い換えると余りものじゃない余白。余白を主役にすることを考えていて。

越智

デザインの話？

内海

いや、いろいろです。デザインはもちろん、アーカイブの話だったり、記述の話だったり。何かを作ったり記録したりしなきゃいけないんだけど、それは絶対に本質を捉えられない。そういう前提や境

十中八九



本当は余白のほうに本質があるんだけど、そんな余白を生み出すために、必ずしも本質ではない何かを作り出さなくちゃいけない。その外側もしくは内側かは分からないけど、そこに描かれないものいかにアクセスするのか。この話は僕もまだ整理出来てないんですけど。

そういうときに余白って言葉は、もしかするとよくないのかも知れないんですが、何かを作ったときに、それに付随して生まれ、想起されるものなのは確かだと思ってます。

望月

周縁は出来るよね。

内海

その周縁というのは、必ずしも中心でないという意味ではなくて、これとこれがあったときに間に広がっているたくさんのもものなのかも知れない。描かれなかったものに対する想像力をどう保ったり身に着けたりできるのか。

越智

余白自体をツールとして見ているってこと？

内海

余白はすごくツールになるんですけど、でも直接いじれないんですよ。それ自体を触ることが出来ないから余白なんです。でもそれを余白じゃないものでふちどることで、実はそこに何かがあるってことが言えたりするじゃないですか。

越智

それぞれが余白を持っていれば生まれないものだって思った。たとえば平井は路上園芸がめちゃめちゃ多い地域なんです。他の人がダメって言わず、他の人がいいって言っていれば、周りがOKだったらOKじゃんみたいなことが広まったら良いなって思った。

平林

むしろ今は逆の雰囲気か拡がっているもんね。

越智

そうなんですよ。わざわざ赤ちゃんが泣いているから大丈夫ですよと言わなきゃいけないとか、その逆張りが逆に苦しい。

十中八九



越智

みんなが苦しいから？

望月

同調圧力じゃないですか？

平林

同調圧力なの？

越智

思い込みとか。

内海

今の話を聞いていて思ったのは路上園芸の話でいうと、ここは大丈夫だけど、ここはダメみたいな感覚ってあるじゃないですか。例えば家の目の前ならいいけど、道の真ん中はダメじゃないですか。でもその間には微妙なグラデーションがあって、頭上に枝が出ているのはこれぐらいだったらOKとか。

そこへの解像度の高さみたいなことが大事なのかなって聞いていて思って。それをここから道路だから全部ダメですって言うんじゃないで、何となくこの辺りはダメだけどこの辺りはOKとか。両方余白なんだけど、そこもちょっと違いはあるじゃないですか。公と私の境目なのかも知れないし、そこをいっしょくたに捉えてはいけない。

平林

昔はそれがバランスよく成り立ってことなんですかね。どうなんでしょうね。それが昔から本当は変わってなかったり。いろいろ考えちゃうんですけど。

内海

昔と比べて今は貧しいと考えちゃうのは危険だなとは思っているんですね。だから「昔はよかった」とは絶対言っちゃいけないと思っています。人のなかにはずっとせめぎあう気持ちがあったんだろうなって気もするし。

平林

余裕のなさは関係ないんですかね？

十中八九



を引くとかそういうことでもないだろうと思う。

望月

だから「昔は良かった」 = 「自分が変わっていない証拠」なので。



越智

今のLGBTの話も、LGBTに文句を言っちゃいけないのを強制で強制されてるじゃん、あれが嫌だ。

内海

分かります。むしろそれが議論にあげることが出来なくなる感じってありますよね。

平林

そうだね。もしかしたらそれって、家の前の植木鉢がちょっと道路に出ていると勝手に過剰に反応するのと似てるのかもしれないね。

内海

十中八九



越智

不思議だよな。ここの枝めっちゃ伸びてますけどって言うてくれたら、こっちだって切りますよね。

平林

だいたい言うてこないでしょ。

内海

実は歩行者天国もそういう意味だとかなり危険なんですよ。これは白日の下にさらすことはかなり危なくて、いろんな批判を浴びる可能性が高いので。

越智

プライバシーで？

内海

いや、こういうことをやっていること自体ですね。例えばここで子どもが遊んでるじゃないですか。この子どもの遊び声で迷惑を被っている人がいることを想像しないのかと言われてたりします。そういうことがありうるわけですよ。

平林

そんなことを言ったら、最近は除夜の鐘がうるさいもある。

内海

お祭りの太鼓の音がうるさいからお祭り止めろもあります。

平林

電車の音がうるさいから、電車を止めろとはならない。

望月

じゃあ、そこに住むなって話ですよ。

越智

本当にそうですよね。

内海

十中八九



平林

権利ばかり主張する人は義務は果たさないもんね。

内海

でも僕は逆にそれはすごく面白いと思っていて。歩行者天国が生き残っているのは、そういうことが実際にはここでは大きな問題になっていないからなんですよね。

越智

たしかに。

内海

そういう人がいないところで、生き残っているものが実はたくさんある。それをちゃんと見せられたり体験してもらえたら、意外と理解してくれる人が増えてくるんじゃないかなと思っています。

望月

逆にそういう人たちがいなくても、歩行者天国が無くなっていく気がします。

内海

そうですね。それはあると思います。

歩行者天国は余白



平林

いろんなことを突き詰めていくと面白いですね。歩行者天国自体も余白ですか？

内海

余白ですね。僕は歩行者天国には積極的な意味での余白があると思っています。ただのあまりじゃなく、周りに建物とか住んでいる人がいないと成り立たないわけじゃないですか。ただその道に空間があるだけじゃダメ。その周りにいる人がうまく使いこなしてる余白みたいな存在の歩行者天国である。

平林

これって逆の立場の人、車に乗っている人から見れば、銀座が通れないじゃないかって意見はいくらでも出るわけですよ。

内海

出ますね。でも例えばローカルなところだと車も実質通るんですよ。勝手に看板どかして通るのを黙認していたり、ある通りでは明らかに使ってる人が少ない時は、道の真ん中にポツンと置いてあるだけで、通行止めにした気持ちには表明されているんですけど、横は通り抜けられるんですよ。それってすごくうまい折り合いのつけ方だったりするんですよ。

十中八九



感じてきたよ。

越智

たしかに面白いですね。

やっぱり本が好き



望月

ずっと本に携わっていたい？

越智

ずっと本に携わっていきたいです。

望月

それは別に本に限らず？

越智

十中八九



ブックもオーディオだけど本なんで、そういう意味では「本」は概念だからなくならないんだろう。どういう形でも「本」に携われたら面白いとずっと思っています。でもこの先もどうなっていくかわからない。

望月

でも出来れば本屋で働くのが理想なのかな？

越智

うーん。本を売るのは面白いですね。小売って面白いです。

望月

小売は何が一番面白いですか？

越智

なんだろう。なんですかね？

望月

やっぱり本を介して人に会えるってことなんですかね？

越智

それも面白いです。やっぱり本好きの変な人、いわゆる個性的なお客さんはやっぱり来るといっばいお話していただきます。その人が欲しいと思う本を私が手渡せたら、それはそれで嬉しいし、それは面白いです。あとはこの人こういうことで悩んでるって何冊か持ってるだけで見える。それも面白い。

内海

それはありますよね。

越智

本をどう置いたら何が売れるかを新刊書店でやっているときは、すごく楽しかった。

望月

本を意識して置くことでやっぱり変わるものなんですか？

越智

十中八九



望月

ありますよ（笑）。

越智

全部amazonで済ます人もいるので。本屋さんに行ったときって思ったよりちゃんと本棚を見てないんですよ。スーっと見て回って、そのときに目についた本を買うじゃないですか。だから気づかれないように入ってる本は買われぬ。

そういう本をちゃんと目立たせる。これを売りたいという本を目立たせたり、これは売れそうだって本を目立たせていくと顔面に違います。

内海

自分は全然本屋ではないので分からないし、ただの消費者だったんですけど、僕も平井の本棚に関わりだして話を聞いていると、そうか棚って気を遣うとそうなるのかってことがわかりました。逆に気を遣われていないものもあるわけです。そんなに自分で見てすぐわかるわけじゃないんですけど、棚に対して気を遣うという概念があることを知りました。

越智

実はそうなんですよ。

内海

単純にわかりやすく並べるといってもなくて、もっと深いものもあったりするんじゃないですか。予期せぬ出会いを作り出すとか。

望月

だから自分たちで余白を作り出しているんですよね。

越智

ありがとうございます（笑）。まとめてもらって。



PROFILE

越智風花

1993年愛媛県出身。信州大学にて地域福祉を学ぶ。
2016年長野県松本市にて「おんせんボックス」オープン、2019年5月閉店。
2019年6月結婚を機に上京、のち「平井の本棚」スタッフになる。

内海皓平

1995年東京都出身。東京大学で建築を学ぶ。2017年より歩行者天国に関する研究を始める。
「平井の本棚」イベントスペースを始めとする空間設計・施工やイベント企画に関わる。
2020年3月に修士課程を修了し、4月からは(株)OpenAに勤務予定。



3 / 3



SHARE POST



530



44



1



3

十中八九



本を売るだけの本屋の先を僕らは作っていく

鎌田裕樹

2020.03.30



肩書きが欲しかった男が、いま肩書きを持たなくなった理由

小国士朗

2019.12.23



お肉からはじまるコミュニケーション

千葉祐士

2019.10.03



大きな振り幅の中でこそ生まれるものもあるのかも知れない

吉満明子

2020.04.06



流れに身を任せると、面白いものにぶつかることがある

市島晃生

2019.09.09



リアルな十中八九#2

"ちょっと"エンタメをHackする

西田二郎 三代目 桂枝太郎

2020.01.19



POP TAGS

#カメラ #地酒 #関係人口 #街歩き #落語 #広告 #逗子 #寺社仏閣 #鎌倉
 #スポーツ #中国 #本 #広報 #本屋 #海 #二拠点生活 #ダイバーシティ
 #音楽 #京都 #パン屋 #リノベーション #デザイン #歴史 #イーストトーキョー
 #雑誌 #移住 #横浜 #ものづくり #ブーム #東京 #テレビ #SNS
 #イノベーション #情報 #地方 #編集 #ローカル #コミュニティ #メディア
 #クリエイティブ #街 #企画 #余白 #アイデア #all

FEATURE

特集

COLUMN

コラム

POP POSTS

人気記事

十中八九



ABOUT

PRIVACY

REGULAR TAGS

#COMMUNICATION

#TECHNOLOGY

#FOOD

#LIFESTYLE

#EDUCATION

#DESIGN

#CULTURE

#EVENT

POP TAGS

#カメラ #地酒 #関係人口 #街歩き #落語 #広告 #逗子 #寺社仏閣 #鎌倉 #スポーツ #中国 #本 #広報
#本屋 #海 #二拠点生活 #ダイバーシティ #音楽 #京都 #パン屋 #リノベーション #デザイン #歴史
#イーストトーキョー #雑誌 #移住 #横浜 #ものづくり #ブーム #東京 #テレビ #SNS #イノベーション
#情報 #地方 #編集 #ローカル #コミュニティ #メディア #クリエイティブ #街 #企画 #余白 #アイデア
#all



© JICCHUUHACK